



宮司プレス 第百六十二号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ
 発行者 彦島八幡宮
 宮司 柴田 宜夫

発行 令和二年十一月二十二日

◇宮司の柴田です。 夕風が肌寒く身にしみる

折節となり、参道のみみじや境内の桜の葉も霜葉(そうよう)と読み、霜に当たって紅葉した葉

の(ことです)となり、色も鮮やかです。 裏面に写真を掲載しました。 宮司プレス既刊号の

第五十四号に、紅葉のメカニズムについて詳述(しようじゆつ)していますが、紅葉とは、秋に葉が紅(くれない)に変わる事であり、また、

その紅に変わった葉の事です。 晩秋の季節の移ろいを記述(きじゆつ)したばかりで、科学的な分析(ぶんせき)を試(こころ)みるのは、

情緒(じょうちよ)に欠(か)ける話となってしまうますが、紅葉は、葉の細胞の中のアントシ

アンが増して、葉緑素(ようりよくそ)が、分解するために起こります。 「カエデ」や「ウルシ」や「ツタ」など、境内の桜の霜葉もそう

です。 黄葉は、黄色に変わる葉の事で、これも葉緑素が分解して、黄色色素(カロテノイド)が、残るために起こります。 「イチヨウ」が

そうです。 ちなみに、「紅葉(もみじ)は」という言葉は、「朱(あけ)」にかかる枕詞(まくらことば)でして、紅葉は、紅の色も表して

います。

◇明日は、大祭式(たいさいしき)でもつて齋行(さいこう)しなければならぬ重儀(じゅうぎ)の新嘗祭(にいなめさい)を御奉仕申し

上げます。 私が、明日の新嘗祭(にいなめさい)で着装(ちやくさう)くそう)する装束(しようぞく)の袍(ほう)は赤色(せきしよく)、しかもその袍の裏地も濃

い赤、さらに、その袍の下に重ねる単(ひとえ)

も朱色(あけいろ)です。 これを「紅葉(もみじ)かさね」といいます。 明日の新嘗祭(にいなめさい)のお供え物(こけもの)を載(の)せる台(さんぼう)と

言(い)います。 「朱塗(しゆぬ)り」です。 江戸時代後期(じやうたいごき)の伊勢(いせ)神宮(かみみや)の神主(かみぬし)さんで、神道家(かみみか)

(しんとうか)の度会(たぎ)延佳(のぶよし)のぶよしさんが、「正直者(ちかじやく)の頭(こうべ)に神宿(かみやどり)と

述べ(たづね)られたように、神様(かみさま)の好まれる徳目(とくめい)とくもく)は正直(ちかじやく)です。 私は、正直(ちかじやく)という徳目(とくめい)、

神様(かみさま)への誠心(まことこころ)を色(いろ)を表(あらわ)すと、鮮(あざ)やかな紅(べに)になる

のではないかと思(おも)います。

◇後醍醐天皇(ごていご)様の御製(ごせい)に、「みな人の心(こころ)をみかけ 千早振(ちちはや)る 神(かみ)の鏡(かみ)の くと

るときなく」とあります。

「千早振(ちちはや)る」とあり

「くも」とあり

「くも」とあり

「ふる」は、神にかかる枕詞(まくらことば)ですが、神様の鏡(かみ)がいつも澄みきっているように、常に清々(きんげん)しい心(こころ)で暮(く)らすことを心掛(こころが)ける尊(とん)さを論(ろん)とさ(さ)れているのです。

◇冒頭(ぼうとう)、科学的分析(かくてきぶんせき)を試(こころ)みました

が、実は、科学(かがく)の基本(きほん)は、「知(し)っていること」と「知らないこと」を厳(げん)しく区別(くわく)することだ

です。 宇宙(うちゅう)の物質(ぶつ chất)の二割強(にせつかう)、エネルギーの七割強(しちせつかう)は未知(みそ)なのだ

です。 当然(たうぜん)ですが、人間(にんげん)は全知(ぜんち)ではなく、現在(げんざい)の新型(しんがた)コロナウイルス(おにが)の感染(かんせん)症(しやう)の拡大(かくたい)も

わかりませんが、すべてを制御(せいぎよ)する(せいぎよ)することは不可能(むべからず)です。 そうであるならば、もつと謙虚(けんそ)に、生態系(せいたいけい)の一部(いちぶ)であること(こと)をはっきりと意識(いしやく)して、行動(こうどう)も慎重(ちんじゆう)であるべき(べき)ではない

でしょうか。 そして、未知(みそ)なるものへの、「畏敬(いけい)」「恐れ」「敬(けい)」のミックスした心(こころ)である、「畏(かしこ)み」という思いを大切(たいせつ)にしなければなりません。 その思いが、心の鏡(こころのかげ)を磨(とが)き、清々(きんげん)しい心(こころ)で暮(く)らす心掛(こころが)けである「祈(いの)り」につなが(つな)がっていくのだと思(おも)います。

明日(あした)の新嘗祭(にいなめさい)、神(かみ)の鏡(かみ)の くと

るときなく」という正直(ちかじやく)という徳目(とくめい)、誠心(まことこころ)の心(こころ)の赤袍(せきぼう)を身(み)に着(き)けるのですから、身(み)も心(こころ)も晴(は)れ晴(は)れと御奉仕(ごほうし)申(まう)し上(あ)げ、一日(いちにち)も早い(はやい)コロナ禍(か)の終(しゆう)息(しき)とコロナ禍(か)の前の「ピフォアコロナ」に、「も

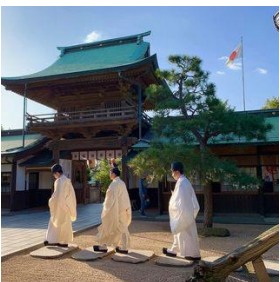
とほる、よみがえる」ことをひたすらに祈(いの)りたいと思(おも)います。

◇十一月の祭典行事報告(予定も含みます)

▼月次祭 *十一月一日、十五日

▼早起会参拝 *十一月一日

▼明治祭 *十一月三日



▼衣替え *十一月七日

※当宮では立夏と立冬で装束(しよろぞく)

が、夏物から冬物へ衣替えです

▼立皇嗣の礼当日祭

*十一月八日



▼維蘇志会役員会 *十一月九日

▼新嘗祭

*十一月二十三日

▼六連島八幡宮新嘗祭

*十一月二十五日

▼七五三参拝 *十一月中申込受付中

▼朝粥会 *十一月二十一日

▼神社総代会 *十一月二十三日

▼十一月限定御朱印

*明治祭限定 ※なくなり次第終了です

*立皇嗣の礼限定 ※数に限りがあります

*新嘗祭限定

※十一月二十一日より頒布しています

▼手水舎を花手水にしました!

*十一月二十一日



▼境内の紅葉がきれいです!



▼山口県神社庁、同下関支部関係

◆山口県神社庁周東支部熊南分会神宮大麻頒始祭

*十一月四日

※田布施町高松八幡宮

◆山口県神社庁立皇嗣礼当日祭

*十一月九日

◆下関支部神宮大麻頒始祭

*十一月十一日

◆神職養成講習会講師打合

*十一月二十七日

◆神社庁教化部教化広報部会

*十一月二十七日

◆神社庁記者会見

*十一月二十七日

▼美祢社会復帰促進センター教誨活動

◆集合教誨(女子)

*十一月九日

◆集合教誨(男子)

*十一月三十日

▼その他

◆角倉小学校四年生の授業に講演

*十一月十八日

◆迫町自治会役員会 *十一月十八日

◆下関市中央倫理法人会経営者セミナー

グセセミナー *十一月二十六日

※早朝六時、当宮にて開催

◆建国下関奉祝会役員会 *十一月三十日